

平成20年1月29日

大町市長 牛越 徹 様

大町市総合計画審議会
会 長 坂中 正男

事務事業の評価による大町市第4次総合計画の
進行管理について（中間答申）

平成19年10月29日付19企第75号により貴職から諮問を受けた「事務事業の評価による大町第4次総合計画の進行管理の実施」について、貴職から提示された869事業のうち当委員会で62事業を抽出し、点検と評価を実施したので、別紙のとおり答申いたします。

なお、市の事業を民間委員が外部評価を実施するのは初めての試みであることから、試行的に実施したものでありますが、各事業について市民サイドに立った多くの提案や意見がありましたので、今後の事務事業の改善に反映されることを期待します。

また、同日付で併せて貴職から諮問を受けた「大町市の行政評価のあり方に対する提言」については、今回実施した事務事業の点検と評価を参考に、大町市の行政運営に有効となる行政評価システムの構築について、検討し答申したいと考えております。

事務事業の評価による大町市第4次総合計画の
進行管理に係る中間答申書

平成20年1月

大町市総合計画審議会

1. 経緯

大町市総合計画審議会（以下「審議会」という。）は、平成18年度において大町市第4次総合計画の策定にあたった。また、当審議会の任務として「大町市第4次総合計画の進行管理」を担うこととなっていることから、平成19年10月29日に「大町市第4次総合計画の進行管理並びに大町市の行政評価のあり方」について諮問を受けた。この諮問の内容は、「事務事業の評価による第4次総合計画の進行管理の実施」と「今後の大町市の行政評価のあり方に対する提言」に分かれていることから、事務事業の評価を先行して審議し、その結果を踏まえ今後の大町市の行政評価のあり方を検討することとした。

当委員会では、審議回数を3回程度に絞るため、市から提示された869事業のうち62事業を抽出し、点検と評価を実施した。なお、市の事務事業を民間委員が外部評価を実施するのは初めての試みであることから試行的に実施したものである。

今回の評価では、委員から市民サイドに立った多くの提案や意見が出されたので、これを取りまとめ中間答申を行うものである。

また、同日付で併せて諮問を受けた「大町市の行政評価のあり方に対する提言」については、今回実施した事務事業の点検と評価や先進市等の状況を参考に、大町市の行政運営に有効となる行政評価システムの構築について、検討し答申したいと考えている。

2. 委員会構成

会 長	坂中正男	前委員、経営者協議会
副会長	栗林士郎	前委員、大北医師会
委 員	小日向忠	前委員、商工会議所
委 員	松澤郁子	前委員、社会福祉協議会
委 員	前橋規子	前委員、女性団体連絡協議会
委 員	横澤幸子	前委員、教育委員会
委 員	山本 史	前委員、大北地区労働者福祉協議会
委 員	平林 操	公募委員
委 員	前川浩一	公募委員
委 員	鹿田敏彦	公募委員
委 員	宮澤 健	連合自治会
委 員	新井深充	農業委員会
委 員	成澤勝人	観光協会
委 員	矢口 稔	青年会議所
委 員	岑村修司	識見を有する者

3. 審議経過

平成19年

- | | | |
|--------|--|-------|
| 10月29日 | 第1回審議会
(委員委嘱、正副会長互選、大町市第4次総合計画の
進行管理並びに大町市の行政評価のあり方について
(諮問)、委員会の進め方、事務事業の抽出) | |
| 11月26日 | 第2回審議会
(事務事業の点検と評価 | 19事業) |
| 12月10日 | 第3回審議会
(事務事業の点検と評価 | 19事業) |
| 12月19日 | 第4回審議会
(事務事業の点検と評価 | 24事業) |

平成20年

- | | | |
|-------|-----------------------------|--|
| 1月23日 | 第5回審議会
(事務事業の点検と評価、全体整理) | |
|-------|-----------------------------|--|

4. 審議方法

市が平成18年度に事務事業の評価（行政職員が実施したもの）を実施した869事業の提示を受けたが、当委員会では、審議回数を3回程度に絞るため、委員会で62事業を抽出し、点検と評価を実施した。また、市の事業を民間委員が外部評価を実施するのは初めての試みであることから、試行的に外部評価を実施したもので、市が平成18年度に作成した事務事業評価表をそのまま使用し、評価表に基づき事業ごとに担当課の概要説明を受け、点検と評価を実施した。なお、今回の点検と評価では、時間的な制約もあり、各事業を点数評価するなど客観的・総合的な評価となっておらず、各事務事業への意見や提案を中心とした評価となっている。

事務事業の点検・評価結果

番号	事務事業の名称	提案・意見
1	文書配布及び発送事務	<p>大町地区についてのみ、正職員がこの業務を行う根拠は何か。</p> <p>正職員が文書を手配りするのは、1日どの位か。6地区すべて直営で文書配布を行っているが、郵送に比較してその費用効果を検証すべきである。</p> <p>広報紙等を自治会に届けるなどの繁忙期以外は、他の部署への流動化も検討すべきである。</p>
2	職員研修事業	<p>他市町村との共同研修も検討いただきたい。</p> <p>専門以外の研修も重要。協働に関する研修や窓口対応の研修も必要である。</p> <p>庁外で実施される研修に参加した職員の研修内容や感想等を報告する研修会を実施したらどうか。</p>
3	臨時職員の雇用管理事務	<p>市内事業所との賃金の均衡に配慮しているか。</p> <p>臨時職員の雇用は不安定である。また、採用は市内に限定しなくても良いのではないか。</p>
5	男女共同参画フォーラム開催事業	<p>女性だけの問題と捉えている人が多い。意識改革が必要であり、フォーラムへの男性の参加を推進していただきたい。</p>
6	基幹業務系システム管理運営事業	<p>類似団体の事業費の状況と常に比較検討すべきである。</p>
7	総合情報センター管理運営事業	<p>子どもの遊び場との批判を聞く。インターネットカフェ等の有料施設との関連もあり、利用料が無料であることは再検討が必要。特に2階部分を含め、施設全体の有効活用を図るべきである。</p> <p>市全域をCATVで結ぶのが理想なので検討いただきたい。</p>
9	業者選定審査会事務	<p>一般競争入札導入についての考え方は。</p>
13	防災啓発・防災組織支援事務	<p>昨今の火災の状況を見ると、生活弱者が逃げ遅れたり、訓練に参加できない人が被害にあう事例が多いと感じている。防災アドバイザーの活用や周知方法を検討すべきである。</p> <p>災害時の弱者対策に対応ができる防災マップが必要ではないか。</p> <p>地域が支えあう体制づくりが必要。</p> <p>災害時において、自主防災会などへの情報提供のシステムを構築すべきである。</p> <p>消防団員のなり手が少ないと聞だが、対応が必要ではないか。</p>
14	市営駐車場管理事業	<p>列車を利用して出かける際の駐車場料金が低い。特に2、3泊すれば相当の料金になってしまう。駅前駐車場は出張の利用者が多いので、夜間料金を含め一日あたりの料金を改善すべきである。日中の単位時間の料金は問題ない。</p>

		<p>市内に駐車場は結構あるが、案内表示が無かったり、わかりにくいので、特に改善していただきたい。</p> <p>観光パンフレットを手に入れられる観光客は少ない。案内表示の充実が必要。</p> <p>国営公園開園に向けて、観光客の市街地への誘導が必要。仁科町の駐車場もわかりにくい。大型バスが入れるような駐車場の整備も必要ではないか。</p> <p>駐車場料金は、抜本的に検討する必要があると考える。観光のまちとして、全部駐車場を無料にすれば宣伝効果もあがる。哲学的な部分として、完全無料化も検討してみてもどうか。スキー場も駐車場が無料なので訪れる人も多いが、経営が苦しくなって有料化すると益々人が来ない悪循環に陥る。大局的な視点に立ったサービスとすれば市民も理解するのではないか。</p> <p>木崎湖駐車場は、人が来るときだけ有料にするのはどうかと思う。</p>
17	国保給付事務	医療費通知に間違いがあった。通知を受けた本人が診療記録を確認するよう周知すべきである。
20	不法投棄対策啓発事務	市民のマナーを守るための教育とPRが必要である。全市的な取り組みをしていただきたい。
21	河川ごみ対策事務	<p>何十年ぶりに大町に戻ってきたが、河川が汚れていて非常に残念である。子どもの頃からの教育など長期的な対応が必要。松本市の女鳥羽川の取り組みのように強い意志をもって取り組む必要がある。</p> <p>一斉清掃などで、地域の子どもを巻き込んだ取り組みも必要である。</p> <p>ごみを捨てる人と拾う人に分かれてしまう構図は好ましくない。清掃活動に参加する中で意識が変わっていくような取り組みに力を入れるべきである。</p> <p>子どもの意識も重要だが、親の意識の問題もある。家庭教育の部分で親の意識改革が必要。</p> <p>土地改良区との連携も必要である。</p>
22	環境保全普及啓発・監視業務	タクシーや運送業、郵便局などと連携し、不法投棄の連絡をいただくような体制が取れないか。
23	ダイオキシン類測定事務	<p>県内では1業者しか検査できなくても、随意契約は好ましくない。近隣の県外業者を入れても入札に付すべきである。</p> <p>検査結果は、住民の協力があって行われるものであり、市民に公表すべきである。</p> <p>公表できない部分があると、疑われてしまう。</p>

24	外来植物対策事業	<p>セイタカアワダチソウは、根から種からも増える厄介な植物である。徹底した取り組みを期待する。</p> <p>住民が行う除草などへの助成や、住民を巻き込んだ活動を模索していただきたい。</p> <p>外来植物について、市民への周知が弱いので、積極的に周知願いたい。</p> <p>セイタカアワダチソウは、全国的にも帰化植物になりつつある。駆除しても無くならないので、駆除という考え方自体を変える必要があるのではないか。</p>
27	児童センター管理運営事業	<p>子育て、親育てが必要となっている。児童センターの機能を変えていく必要があるのではないか。</p>
30	街並み環境整備事業(修景助成事業)	<p>旧市役所(社会会館)は、景観的にも防災上も問題がある。景観に配慮した全体的な検討をしていただきたい。社会福祉協議会の用地が狭いので、検討願いたい。</p> <p>大町市全体の街並みの方向性を打ち出していただきたい。道路が広がっても色合いの統一ができていない。</p> <p>大町に昔からある建物の文化を研究し、大町にあったものとしていただきたい。色合いの統一だけでは、本来とかけ離れる恐れがある。</p> <p>高見町の街路整備を行ったが、市では景観に対し、どのような考え方を持っていたのか。また、景観の助成を行うには、市は、方向性を持っていないなければならない。</p> <p>欧米では、各町にデザイナーがいて統一的デザインを行う機能を持っている。工場を建設するには、窓や色、材質など全ての面にデザイナーのチェックが入る。大町市も、10年、20年、30年後のイメージを持つために、デザイナーの検討が必要であり、市民も夢が持てると思う。</p>
31	遊休農地対策事務	<p>高齢化を迎えさらに遊休農地が増える危険性があり、早急な対策を講じる必要がある。遊休農地を解消するため農地銀行を設置し、農地の貸借を行ったらどうか。</p> <p>農協や観光協会と連携した滞在型農業体験事業を推進していただきたい。</p> <p>静の桜公園事業で、遊休農地を活用したいと考えても、農地法の規制があり難しい面がある。</p> <p>農家だけの問題でなく、地域の住環境の問題。市としてモデル的な取り組みを示していただきたい。</p>
32	有害鳥獣駆除業務委託	<p>林業振興との関連が特に高いと感じている。ボランティアを募っての森林整備も検討願いたい。</p> <p>駆除しても、猟友会員自信が処分しなければならないので、何らかの対応が必要ではないか。また、猟友会員の高齢化も深刻である。</p>

		<p>近隣町村との連携が必要。</p> <p>市職員が、狩猟免許を取得することも有効である。</p> <p>農協との連携を更に進めていただきたい。</p> <p>鳥獣の捕獲には、保護という面からも、駆除の許可が必要とされているが、カラス等は保護の必要があるのか。</p> <p>野生動物の個体数の把握は難しいと考えるが、適正数の把握は重要。</p>
33	集落農業育成事業 農業技術経営相談 事業	<p>集落営農を推進する場合、地域に住む農家以外の者も協力して欲しいと言われる。突然言われても集落営農とは何かがわからない。非農家にも情報の提供が必要。</p>
35	林業振興事業	<p>CO₂の排出企業や環境への配慮を方針としている企業に森林整備への協力を呼びかけてみたらどうか。小さなところからでよいが、先進的な取り組みも必要。</p> <p>間伐について補助制度を設けていただきたい。</p>
46	企業誘致助成金事業	<p>企業誘致について、市長や職員だけでなく、市民にも情報提供を呼びかけたらどうか。</p> <p>どういう企業を誘致したいとの方向性を持ち合わせているのか。</p> <p>企業が進出する場合、地元の熱意のある所を選ぶ。進出の際は雨水対策等様々な課題が生じるが、熱意のある所は、比較的スムーズに解決するためである。</p> <p>市のパンフレットは、土地が余っているから使って欲しいというように読み取れる。大町市が産業を育成したいとの信念を伝えることが必要。</p> <p>企業進出に当たり、高速からの距離はあまり重要でないので、穂高と大町は大差がない。熱意を見せることが重要。大企業は海外に進出しているので、同種の中小企業をいくつか誘致することで、連携や情報交換が図られる。</p>
47	誘客宣伝事業	<p>黒部の太陽フェスタなど一過性の事業は、観光振興につながらない。</p> <p>大町のブランドをつくりあげてほしい。</p> <p>囲碁によるまちづくりに関する情報発信も重要。</p> <p>黒部ダムなど観光客の減少について徹底的に分析すべきである。</p> <p>行政と民間が一緒になり専門的なプロジェクトチームを作ったらどうか。</p> <p>大町の将来のイメージをつくり、10年20年かけて築き上げることが必要。観光の将来像を持つことが必要である。</p> <p>市民団体の活動が育ってきており、これらの活動をつなげることが必要。観光の一つのテーマにしていきたい。市民活動が取り上げられることは、地域のイメージアップになる。</p> <p>現在の観光客は、景色だけでなく、何かをやりたくて訪れる人が多い。体験型の観光を取り上げていただきたい。子ども向け、高齢者向けというようなメニューも設定する必要がある。</p>

		<p>この地域には、いい地図がない。手書きなどでぬくもりが感じられ、地域の情報がわかるような地図をつくったらどうか。</p> <p>大町は、商店が弱いと感じている。他市町村では、お店を誘致している例もあり、検討いただきたい。</p> <p>王子神社の祭りは、意外と市外の人に知られていない。伝統のある流鏝馬があることをもっと工夫して宣伝していただきたい。</p> <p>観光協会と行政の住み分けが必要な時期となっているのではないか。</p> <p>観光宣伝にかかる費用を増やすべきである。</p> <p>映画ドラマ、ロケなどフィルムコミッションの取り組みを検討すべきである。</p> <p>市内の遊ぶ所、食べる所について、NPO法人から助成を受け、市民レベルでマップを作っているので活用願いたい。</p> <p>雑誌の編集者が大町市に興味を持っていた。活用したらどうか。</p> <p>観光は、大町にとって生命線である。大勢の人に来てもらう観光地を目指すには、観光マーケティングの手法を導入し、年齢層、家族構成、目的等に分ける必要がある。外国人に対する案内標記ができていない。リピーターの確保が最も計算できる集客につながる。一つ一つを分けて解説し、分析する必要がある。</p> <p>観光ポスターに、実際には無い風景があるが、観光客は同じ風景を写真に撮ったり、絵に描きたいと考える。大町には自信をもって薦められる風景があるので検討いただきたい。</p>
54	公民館分室、蔵の音楽館、ギャラリー いいずら運営事業	<p>男女共同参画は、女性だけの問題ではない。生涯学習の取り組みの一部としての拠点づくりが必要。</p> <p>蔵の音楽館やギャラリーいいずらの民間委託や民間活用を検討すべきである。</p> <p>蔵の音楽館、ギャラリーいいずらについては、指定管理も検討すべきである。</p> <p>ギャラリーいいずらは、展示品などの販売ができないこととなっているが、利用者から販売の希望をよく聞くので検討いただきたい。</p>
55	補導・環境浄化活動事業	防犯協会などの同様な目的を持つ団体との連携を図るべきである。
56	青少年育成事業 (子ども会育成会事業)	NPO等青少年育成事業を行う団体があれば、連携をとっていただきたい。
57	大町市芸術文化協会	団体が独自性と自立性を持つようにすべきである。まち全体への活動の広がりがなく感じる。市が手を出し過ぎて逆に活動が弱くなるのではないか。

61	職員の給与支給事務	<p>内科の診療体制の変更について、広報1回でのお知らせでは不十分である。市民には制度改革の不安感だけが先走っており、もっとわかり易く知らせるよう工夫すべきである。</p> <p>給与の引き上げなど医師の待遇改善を図る必要があるのではないか。</p> <p>医師が退職する要因についてきめ細かく調査し、対策を講じるべきである。</p> <p>医師を確保できている病院との違いを分析し、地域の医療機関としての役割を残していただきたい。</p> <p>信州大学だけでなく、他の病院との連携も必要ではないか。</p>
62	決算事務	<p>一部のカード会社のカードが使えない。支払いの利便性を図ることにより、未収金も縮減できると考えるので検討いただきたい。</p> <p>病院の赤字経営についてどのように分析しているか。</p>